

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	ふじのくに地域探究コース(静岡と世界をつなぐマ イプロジェクトコース)		訪問国	カナダ	
学校名	静岡県立浜松北高等学校	氏名	桂花穂	学年	2年

私は、「未来を担う子どもたちに必要な環境教育
～カナダの保育園で学ぶ持続可能な社会～」というテーマで
カナダの BC 州ビクトリアに 3 週間留学しました。

〈探究の背景〉

小学生から継続して行ってきた自由研究等を通して、
ゴミを出さない暮らしが大切だと分かりました。
同時に、多くの人に環境に優しい行動をしてもらう
ことが持続可能な地球環境を作ると考えました。そこで
今回は教育に注目し、未来を担う子どもたちが自然を
大切に思って行動できるようにするために必要な教育の
あり方を自然豊かなカナダから学ぼうと思いテーマを設定しました。



↑ 自由研究

〈問いに対する仮説〉

日本に環境教育が主流でない理由として、現在の日本社会では、自然環境に対する親近感や理解が十分に広
まっていないため、人々の関心が向かず、環境教育に力を入れることのできる園や学校の需要が少ないのではな
いか。また、街には自然と呼ぶことのできる緑が少なく、日本の子どもたちは学歴社会の中で幼い頃から塾に通う
など屋内で過ごす時間が長いことが、自然に触れる機会の減少につながっていると考えました。

〈留学前の活動〉



卒園した保育園を訪れ、保育がどのような流れで行われているのか調査しました。また環
境への意識の違いを探るために、自然と関わる機会や環境に対する取り組みに関するイ
ンタビューを行うとともに、日本で環境教育が主流でない理由を自然との関わりからの観点か
ら仮説を立てながら考察し、カナダでの探究活動に応用しました。

〈留学中の活動〉

現地の保育園に通い、環境教育について学びました。
ボランティアを通して、子どもたちがどのような環境
でどんな活動を行っているのか、また自然の中で学ぶ
ことにはどのような意義があり子どもたちにどんな影





響を及ぼすのかを調べました。また、マイクロプラスチックの採集・分析を行う企業のオフィスを訪問し日本に持ち帰ることのできる技術を学んだり、草取りを通して地域環境を守る取り組みを体験したり、ホームステイを通して、日常生活における環境設定のための工夫を探したりしました。

↑ゴミ拾い

↑企業訪問

〈問いに対する答えと考察〉

カナダの保育園では、公園やビーチなどの自然で遊ぶ時間が必ず毎日設けられている、子どもたち自身で自然と遊ぶ経験を大切にしている、先住民との関係を意識させることで感謝の気持ちを育てているなどの様々な環境教育の工夫が見られました。自然の中で学ぶ意義としては、自然との関わりは自分が思ったようにいくことばかりではないため、「共生する」ことを学ぶことができること、また、自然のことが好きになり、自然を大切にしようと思う心が発達することで、環境意識の向上や、将来地球のために積極的に行動できる人材の育成につながるなどが挙げられます。これらを踏まえ、浜松に応用する方法として、小さい頃から自然と関わる機会を頻繁に設けることが大切だと思います。身近にある自然環境で遊ばせてもらうことに感謝したり、少人数教育によって自然の多い場所に行きやすい体制を作ることが、環境教育の実現への一歩になると考えました。

〈留学後〉

自分が卒園した保育園に訪れ、文化や生活環境が違うカナダで学んだことから浜松で応用できる教育方法を自分なりに考察し、提案しました。また、SNSを使って留学で得た環境教育の工夫や環境に配慮した暮らしについての情報を発信し、自分の経験を共有することで、より多くの人に自然を大切にすることを覚えてもらえるようにしました。



〈今後の留学の展望〉

より多くの人に環境に対する意識を高めてもらうために、今度は貧困層に着目して活動したいです。「日本に住む私達にも貧困地域に住む人にもできる、取り組みや環境を守るための工夫は何か？」というテーマでアフリカの貧困地域に留学し現地の学校に通いながら、現地での生活やインタビュー、ボランティアを通して貧困地域に住む人々とともに直接問題に向き合い、現地の人だけでなく今の日本に住む人々にもできる最も有効なアクションのアイデアを自分なりに考察し、地域や国に還元します。